

TaKeFu SSH NEWS



SSH
Super Science High school

福井県立武生高等学校
SSH 研究推進部
2026 年 9 月 14 日発行

SSH NEWS No.13

13 探究文科 2 年 人文社会探究 I 評価モデレーション

9月9日(水)の探究の時間に、生徒と教員による評価モデレーションを実施しました。前半では、二つの探究ポスターをもとに良い点や改善点について話し合い、よりよい人文・社会研究とはどのようなものかについて考えを深めました。後半では、よりよい評価の在り方について検討し、現在の評価表を用いて研究の良さや改善点を適切に評価できるかを話し合いました。

今回は、大阪教育大学の八田先生、福井大学の遠藤先生、敦賀高等学校の2名の先生方にも授業にご参加・ご参観いただきました。活発な話し合いがなされ、生徒たちもモデレーションの意義を感じていたようです。



【生徒の感想】

- ・人によって見る観点がかなり違うことを実感しました。評価基準についても共通理解を図っておかないと差が生まれてしまうと感じたので、公正な評価のためにもなるべく細かく見直す必要があると感じました。今回学んだ基準をもとに今後の発表に生かしていきたいです。
- ・普段 TKF アナライザーを通して行っている自己評価と先生や外部の方から見た評価をすりあわせることができ、普段は知ることのない先生方が探究の中で意識していることが今回の共有の中で見えてきたので興味深いと思いました。評価は人によって違い、立場などによっても違うのでそのすり合わせや違いを知る作業を行えてよかった。
- ・問いそのものを評価するという意見を聞いたときに新たな着眼点であり、実際にこの観点を追加してほしいと思いました。また、検証方法だけでなくその内容を評価するのも大切だと思いました。

【講師の先生方からのアドバイス】

- ・生徒の皆さんが積極的に議論していた点が良い。独自性ということは評価されるべきではないか。
- ・生徒の意見にもあったように全体を見るという視点があってよい。
- ・逆に、違った視点が、一つの観点の中に混ざっていることもあり、その点を整理する必要がある。